



第8回技術WGでの指摘事項とその対応案

2025年 1月20日

環境省環境再生・資源循環局

中間貯蔵施設における除去土壌等の減容化技術等検討WG(第9回)

主な指摘事項と対応案①

< 最終処分に向けた減容技術等の評価案について >

	委員の指摘事項	対応方針案
1	分級処理等の水を使うプロセスの評価が高くなっているが、必要な水量や、排水量を示すことが必要。	必要な水量、資材量、二次廃棄物について記載した。 (資料3 参考資料)
2	技術の組合せについては、個々の技術評価で◎となっているもののみを組み合わせるというのではなく、○の評価となっても前後の技術と相性が良いものについても検討していくということによいか。	まずは今回の個々の技術の評価を参考に組合せを検討し、組合せにおける課題等を確認する。
3	得られているデータが平成23年～27年など時間が経っている実証について、今となっては人がいなくなっている、という可能性もあるので、特殊な技術が含まれる場合は情報として、把握すること。	最終処分に係る複数選択肢の検討の中では、ご指摘の点も考慮する。
4	減容技術について、技術の漏れのない論拠集を整備する必要がある。	これまでの技術実証で得られているデータを整理するとともに、今後も関連する技術情報の収集・整理を行っていく。
5	評価基準で、資料3のP11などに、技術の評価と対象となっている技術の数を記載してほしい。さらに、現時点での技術での評価であること、今後の組合せを考える上での目安となる、などを付記しておくが良い。	<ul style="list-style-type: none"> ・実証事業の件数を資料3 参考資料に記載している。 ・現時点で把握された成果による評価であること、技術の組合せ検討の参考とすることを追記した。(資料3 P10)
6	資料3のP14で機械式研磨等、表面研磨等の表現を合わせること。	機械式研磨等とし、表現を統一した(資料3)。

主な指摘事項と対応案②

< 除去土壌からの放射性セシウムの溶出特性、最終処分に関する検討の進め方について >

	委員の指摘事項	対応方針案
7	資料4の浸出水のデータで、大熊3-4、3-3で10Bq/L程度の濃度が検出されている。これらについては貯蔵している土壌の放射能濃度が高いのか。	大熊3-3は8,000Bq/kg以下の土壌、大熊3-4は8,000Bq/kg超の土壌を貯蔵している土壌貯蔵施設である。このデータについては、浸出水の原水であり、ろ過等をしていない状態でのものである。
8	資料5のP6で、溶出低減効果とあるが、そのほかに維持管理側で（土壌層の設置、間詰め材など）の対策も記載するのがよい。強度については、落下強度等、必要に応じて、要求される強度で示した方がよい。	資料2に追記した。
9	運搬においては、容器の封入も必要になってくるかもしれず、強度や、いろいろな試験で求められる性能に合致するような運搬方法を検討すること。	資料2に運搬に関する基本的な考え方を記載。